



12月26日(水)開催予定の 第3回《科学技術教育フォーラム》詳細確認



いよいよ再来週に迫った第3回《科学技術教育フォーラム》の準備内容を最終確認



12月12日(水)午後6時から日科技連東高円寺ビルで第32回《TQE特別委員会》を開催、11名が出席しました。

鈴木委員長の開会挨拶に続き、いよいよ再来週に迫った『第3回科学技術教育フォーラム』(12月26日(水)開催)に向けて、事前準備、当日の役割分担などの最終確認を行いました。

鈴木委員長を中心に準備の方は順調に進んでおり、既に講演者からは講演集の原稿が提出され、印刷への準備が進んでいること、現在までに総務省や文部科学省はじめ全国からの教育関係者や企業関係者など150名を超える参加申込みがあり、準備内容について詳細に議論しました。

その他、最近の数学教育関連、中央教育審議会動向などについて渡辺副委員長から具体的な内容が紹介されました。

また、TQE特別委員会の活動について関心を高めて頂くための対外的な活動の一環として、来年(平成25年)6月に開催される品質管理シンポジウム「持続可能な品質優位の経営戦略～世界最高技術と日本品質を極める人材育成～(仮題)」のグループディスカッションのテーマに内定したことが紹介され、鈴木委員長がその一つのテーマのリーダーとして参画されることが紹介され、企業側からの社員教育などに関する意見が交わされました。

次回は2月22日(金)



渡辺委員からは最近の初等中等教育はじめ教育界の動向が紹介され
“問題解決力”への関心が高まっていることが伝えられました



開会挨拶をする鈴木委員長



最新の教育界事情を説明する渡辺委員

はじめに12月26日に開催を計画している第3回《科学技術教育フォーラム》の準備状況について鈴木委員長が説明し、意見が交わされました。

続いて渡辺委員から最近の教育界事情、文部科学省の動向、中央教育審議会の動きなどが紹介されました。

また鈴木委員長から来年（平成25年）6月に開催される品質管理シンポジウム「持続可能な品質優位の経営戦略～世界最高技術と日本品質を極める人材育成～（仮題）」（主担当：近畿大学の岩崎日出男教授）のグループディスカッションのテーマの一つとして「グローバル化に向けての初等中等教育への機体と企業の役割」（仮題）が紹介され、タイトル並びに内容について議論が交わされました。



箱根の小涌園ホテルで毎年2回開催される品質管理シンポジウムは来年6月で96回目を数える歴史あるもので、国内の著名な企業の品質管理を管掌する役員や部門長と学会や教育関係者など、150有余名が参加する産学連携の場でもあります。

箱根の小涌園ホテルで毎年2回開催される品質管理シンポジウムは来年6月で96回目を数える歴史あるもので、国内の著名な企業の品質管理を管掌する役員や部門長と学会や教育関係者など、150有余名が参加する産学連携の場でもあります。

仮題については企業関係者が魅力を感じるようなものにして欲しいとの意見が出され、企業関係者だけではなく学生にも現在の教育の在り方、内容に疑問を持っている人が多いと指摘がありました。



新入社員に基礎から教えるのは大変な苦勞があり、そうした企業関係者の意向を反映して欲しいとの意見。

大学生を企業に招いてのインターンシップで問題解決力の演習を指導しているが、受講した学生の多くが「もっと早く、初等中等高等学校の段階から、こうした“問題解決力”を学んでおきたかった。」という意見が寄せられたと紹介され、全員共感。



折しも12日も朝日新聞朝刊第1面に63カ国・地域が参加した国際教育到達度評価学会の「国際学力調査」の結果が紹介され、小4算数と理科が過去最高得点、「脱ゆりのり成果」と紹介されていました。